



一粒が大きく、甘くて、みずみずしい

ブルーベリー



7 月ごろから収穫時期を迎え、8月上旬～9月中旬に最も甘くなるブルーベリー。市内では、岩本山や大淵、今宮などで栽培されています。

生産農家の望月和宏さん（岩本）は、「4年前までお茶を栽培していました。が、茶畑の土壌がブルーベリーの栽培に適していることを知り、挿し木や接ぎ木で栽培を始めました。1年目は、木を育て、根を張らせるために、実は全て取り除き、2年目に、初めて実を収穫しました」と話します。

「ブルーベリーは、土を乾燥させたり、湿らせたりと、水の管理が大変です。また、根が浅く、風に弱いのも特徴で、台風のと きなどは、有効な対処法がないので、被害が心配です」と栽培の大変さを語ります。



実の大きさや色づきなどを確認する望月さん

「私の農園では、園内にミツバチを放ち、多品種の花粉を交配しているの で、甘くて大きな実がなります。甘い実の見分け方は、茎と実の接続部が赤く、手でさわると簡単に枝からとれる ものです」と教えてくれました。

市内では、農園やスーパー、かりがね産直市などで販売されています。

ズームアップ

季節の草花が咲き、生き物が集まる手づくりの鮫島区憩いの場

鮫島のビオトープ



鮫 島区の活動団体「鮫遊会」が、平成24年から約2年かけて整備した、全長100メートルのビオトープ。こ とし6月に完成しました。

会のメンバーで区長の佐野誠さん（鮫島）は、「雑草やごみなどで荒れていたこの場所を、子どもたちの遊んでいたような川辺の動植物が集まる場所にし、昔の風景を取り戻したい」と思い、着工しました。背丈ほどもある雑草を刈る作業は、沼地に足を取られ、一番苦戦しました。その後、橋や木道づくりに着手しました」と話します。

「このビオトープのテーマは、四季を感じながら、ゆっくり過ごせる場所です。白糸の滝やカメをイメージした小滝や築島など、目で楽しめる工夫を



川底の石磨きや除草作業をする「鮫遊会」の皆さん

しました。また、川辺の生き物の生態を考え、石の置き方で川の流れも工夫しています」とこだわりを教えてくださいました。

「今後も手を加え、毎回変化を楽しめる場にします。いつかホタルが自然に住みつくといいですね」と話します。皆さんも身近な自然を楽しみに、足を運んでみませんか。

HAPPY PHOTO'S

我が家のアイドル



岩淵 未来ちゃん（中野台）
H25. 12. 31 生
「あなたの笑顔に癒やされます！みく大好き♡」



村松 芽依ちゃん[左]・拓海ちゃん(久沢)
H25. 7. 8 生・H23. 2. 12 生
「仲よし兄妹!!まさしく我が家のアイドル☆」



松室 重吾ちゃん（川成島）
H25. 12. 8 生
「重吾くん☆もりもり食べて大きくなあれ!」



★我が家のアイドル大募集!!
あなたの子どもの写真(顔全体が写っている横写真)とコメントを大募集!!詳しくは広報広聴課まで。
☎(55)2700 ④(51)1456
kouhou@div.city.fuji.shizuoka.jp